公益財団法人８０２０推進財団

令和７年度　歯科保健活動助成交付事業報告書［抄録］

１．事業名：

長野市内における障害者福祉施設での歯科健診および口腔ケアの取り組み

２．申請者名：

公益社団法人　長野市歯科医師会　会長　堀内　雅彦

３．実施組織：

公益社団法人長野市歯科医師会地域保健部（在宅・障害者）担当

社会福祉法人長野市社会事業協会　栗田園

特定非営利活動法人　ZERO

４．事業の概要：

一般的に知的障害者は口腔衛生状態が悪く、う蝕や歯周疾患に罹患しやすいとされている。

従って歯科診療の必要性が高くなるが、その受診率は障害者の個人的あるいは社会的背景に影響されてあまり高くない。

そこで長野市内開設の障害者福祉施設において、施設を利用する知的障害者に対して歯科健診および歯科衛生士による口腔ケア、口腔衛生指導を実施した。

本年度は、これまで本事業に１２年間協力していただいた障害者福祉施設「栗田園」に、特定非営利活動法人「ZERO」を新たな協力施設に加えて、合計２施設で歯科健診事業を行うこととした。

５．事業の内容：

令和７年７月から 12 月の期間に障害者福祉施設「栗田園」ならびに特定非営利活動法人「ZERO」を利用している知的障害者に対し、施設ごとに歯科医師による口腔内診査を 2 回と歯科衛生士による口腔衛生指導を 4 回行い、その結果を考察した。

６．実施後の評価（今後の課題）：

今年度より新たに１施設「ZERO」を加えて歯科健診事業を行ったが、１２年間継続してきた「栗田園」と比較すると口腔衛生状態、う蝕罹患率、歯科受診率の全ての項目で明らかな差があった。

特に歯科受診率の差は大きく、今後は、健診事業期間内に歯科受診を促す方法を考える必要があると思われた。

また、受け入れ先となるわれわれ歯科医療提供側の体制を整える必要があり、当会では会員に対して障害者歯科医療に関する研修を今後も定期的に開催する予定である。

口腔ケア事業では、「ミールラウンド時に確認したい処方内容」という内容で講演を行ったが、歯科医師のみならず薬剤師会、看護協会等の他団体からの参加もあり、多職種連携の観点からも有意義な時間となった。